

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 24 日現在

機関番号：37701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13392

研究課題名(和文) 榊原本『源氏物語』の研究 古本系『源氏物語』の位置付けを明確にする

研究課題名(英文) The research of Sakakibarabon "Genji Monogatari"--Clarify the detail of "Genji Monogatari" that was written in the middle of Kamakura Era

研究代表者

武藤 那賀子(MUTO, Nagako)

鹿児島国際大学・国際文化学部・講師

研究者番号：40759495

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：報告者は、国文学研究資料館に2013年に所蔵された榊原本『源氏物語』全16帖(桐壺・夕顔・紅葉賀・葵・賢木・逢生・関屋・絵合・若菜下・柏木・横笛・匂兵部卿・東屋・浮舟・手習・夢浮橋)と、その傍帖である学習院大学所蔵の「藤袴」帖を調査の対象とした。中でもとくに、「藤袴」帖は、榊原本『源氏物語』の経歴を知るにあたり重要な資料である。

本研究において、「藤袴」帖の題簽が中院通茂によって書かれたことがまず間違いないことがわかった。また、三條西実隆によって書写された「桐壺」帖は、三條西家旧蔵である日本大学所蔵の「桐壺」帖と比較することによって、書写状況が明確になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

池田龜鑑、そして国文学研究資料館によって研究された榊原本を、学習院本「藤袴」巻から捉えなおすことで、その書写年代、54帖一揃えが崩れた時期を明確にすることができるという点が独創的である。

現在、『源氏物語』の本文研究では、鎌倉期に書写された『源氏物語』に焦点が合わせられているが、そこに16帖しかない榊原本は入っていない。榊原本の本文は、三條西家本、肖柏本などに近く、新編日本古典文学全集『源氏物語』の底本である大島本からは遠い。本研究を行なうことによって、『源氏物語』の本文研究をする上で、無視してはいけない鎌倉期書写の『源氏物語』の1つとしての榊原本の価値を明確にできた。

研究成果の概要(英文)：In this note, two texts of the tale of Genji are concerned. One is the all volumes of Sakakibara edition, owned by National Institute of Japanese Literature from 2013, including 16 Volumes, Kiritsubo, Yugao, Momijinoga, Aoi, Sakaki, Yomogiu, Sekiya, Eawase, Wakananoge, Kashiwagi, Yokobue, Niohyobukyo, Azumaya, Ukifune, Tenarai, and YumenoUkihashi. Another is Fujibakama held by Gakushuin Unibersity. Especially, Fujibakama of Gakushuin is important for knowing the genesis of Sakakibara edition. Investigation of these texts shows it sure that the title of Fujibakama was written by NAKANON Michimoti(中院通茂). One more finding is as for Kiritsubo, transcribed by SANJONISHI Sanetaka(三條西実隆). One of other editions of Kiritsubo had been held by family of Sanjo-Nishi and now owned by Nihon University. By comparing these two editions the history of transcription became clear in detail.

研究分野：平安王朝文学

キーワード：源氏物語 榊原本 書写本 鎌倉時代 室町時代 中院通茂 書誌学 物語学

## 1. 研究開始当初の背景

榊原本『源氏物語』(以下榊原本とする)は、1953年に刊行された『源氏物語大成』(注1)に採用されている大島本の対校本文である。『源氏物語大成』刊行時には、榊原本は全部で17帖あったが、「若紫」巻のみその後散逸してしまい、現在は全部で16帖しか残っていない。残っている巻は、「桐壺」「夕顔」「紅葉の賀」「葵」「賢木」「蓬生」「閑屋」「絵合」「若菜下」「柏木」「横笛」「匂兵部卿宮」「東屋」「浮舟」「手習」「夢浮橋」である。

2013年刊行の『源氏物語 榊原本』(注2)では、「桐壺」巻のみが三条西家実隆筆、それ以外の巻はすべて鎌倉期写とされている。この根拠は、「葵」巻の「為相」巻の「為氏」巻の「手習」巻の「為家」の貼紙のみであったと思われるが、その蓋然性は低い。また、『源氏物語 榊原本』に掲載されている書誌情報が極めて少ないことも問題として取り上げられる。

報告者は、2015年に、学習院大学所蔵の「藤袴」巻の書誌を公開し、その本文についても言及した(注3)。この本は、榊原本の僚帖(もともと一揃いだった本)である。また、2015年5月に「藤袴」巻について学会の例会で口頭発表し(注4)、2016年度にも学習院大学の助成金を受けて同本の研究を進めた(注5)。

これらのことから、榊原本の書写年代を特定し、かつ、現存する17帖(学習院本「藤袴」巻を含む)が何人の手によって書写されたのか、書写した人々は誰かということ进行を明らかにすることで、現在、本文の改訂に揺れ動く『源氏物語』研究に一石を投じることができると考えている。

注1 池田亀鑑『源氏物語大成』、中央公論社、1953-1956年

注2 人間文化研究機構国文学研究資料館 編集『源氏物語 榊原本』勉誠出版、2013年  
なお、国文学研究資料館のサイト [http://base1.nijl.ac.jp/iview/Frame.jsp?DB\\_ID=G0003917KTM&C\\_CODE=099-0165](http://base1.nijl.ac.jp/iview/Frame.jsp?DB_ID=G0003917KTM&C_CODE=099-0165) でも、画像を確認することができる。

注3 武藤那賀子、富澤萌末、竹田由花子、橋本裕香子「学習院大学日本語日本文学科所蔵『源氏物語』「藤袴」巻 翻刻」(『学習院大学国語国文学会誌』第58号、2015年3月)、武藤那賀子、富澤萌末、竹田由花子、橋本裕香子「学習院大学蔵『源氏物語』「藤袴」本文考」(『学習院大学大学院日本語日本文学』第11号、2015年3月)

注4 武藤那賀子、富澤萌末、竹田由花子「学習院本「藤袴」巻：鎌倉写本(榊原本僚帖)における巻末独自異文」(物語研究会5月例会、2015年5月(於 学習院大学))

注5 武藤那賀子「学習院大学日本語日本文学科蔵『源氏物語』「藤袴」巻の巻末独自本文の研究」(2016年、度学習院大学人文科学研究所、若手研究者研究助成)

## 2. 研究の目的

本研究は、国文学研究資料館が所蔵している榊原本『源氏物語』(鎌倉中期写、全16帖)を再検討し、以下の3点を明確にするものである。

- ・榊原本『源氏物語』の詳細な書誌解題。
- ・学習院大学所蔵の「藤袴」巻(榊原本『源氏物語』の僚帖)の書誌情報から見直すことによる、榊原本『源氏物語』が17帖になった時期の特定。
- ・各帖における、書写者の人数把握と書写者の推定。

以上の3点が明確になることにより、榊原本『源氏物語』の位置づけが明白なものとなり、『源氏物語』の本文研究にも一石を投じるものになると考えている。

## 3. 研究の方法

本研究は、「研究の目的」に示した3点を明確にするものである。それぞれに番号を振ったうえで、以下の手順を踏んだ。

### 1) 榊原本の詳細な書誌解題

先述したように、『源氏物語 榊原本』(勉誠出版、2013年)の書誌情報は少ない。たとえば、榊原本の表紙には凝った模様が描かれているのだが、これについては、「金泥で各巻にちなむ絵たとえば「夕顔」には夕顔の花、「賢木」には鳥居、「柏木」には柏の木、などなどがえがかれている。」としか説明されておらず、各帖の表紙には言及していない。加えて、現在の榊原本の表紙は摩耗が激しく、この金泥の絵がかなり見えづらくなっており、写真やサイトの画像を見ても、定かではない。実物を斜めにして見ると光の加減で見えるが、現在よりも摩耗の度合いが進んだ場合、見えなくなる可能性がある。また、榊原本は綴葉装なのだが、これも

丁数のみの指摘に留まり、折の数の不自然さには言及していない。ただし、これらについては、前述した 2015 年の口頭発表の折にその調査は済んでおり、あとは論文にするのみである。

## 2) 学習院大学所蔵の「藤袴」巻(榊原本の僚帖)の書誌情報から見直すことによる、榊原本が 17 帖になった時期の特定。

学習院本「藤袴」巻が榊原本の僚帖であることは既に発表した。これ以前は、榊原本にはいわゆる「玉鬘十帖」がなく、そもそも 54 帖全て揃っていたかが不明であった。しかし、今回、「藤袴」巻という「玉鬘十帖」中の 1 帖が見つかったことにより、榊原本がもともと 54 帖あった可能性が大きくなった。また、「藤袴」巻の題箋は、中院通茂の手によるものであることから、榊原本が 17 帖(「若紫」巻を含む)になった年が、榊原家が目録に榊原本の所在を記した年よりも、数年から十数年早めることが出来る。

さらに、学習院本は、諸本間の異同がほとんどないとされる「藤袴」巻であるにもかかわらず、末尾に独自本文がある。この独自本文からも、榊原本についての手がかりがあるものと考えている。

## 3) 各帖における、書写者の人数把握と書写者の推定。

池田亀鑑著『源氏物語大成』では、漢字と仮名の使い分け、異体字、仮名遣いなどの意味に影響を与えないと考えられた校異は省略される傾向にある。しかし、榊原本は、1 帖を複数人で書写する寄合書をしていることから、書写者によって使用する文字が違う可能性が否定できず、よって、16 帖全ての翻字と書写者の区分が必要になる。また、これに伴い、筆跡から、可能な限り書写者を推定していくことで、年代の特定もできるものと考えている。

## 4. 研究成果

榊原本『源氏物語』の詳細な書誌解題および学習院大学所蔵の「藤袴」巻(榊原本『源氏物語』の僚帖)の書誌情報から見直すことによる、榊原本『源氏物語』が 17 帖になった時期の特定は、「榊原本僚帖『源氏物語』」「藤袴」巻(学習院大学日本語日本文学科所蔵)と中院通茂」という題目で学会発表を行ない(全国大学国語国文学会、2017 年 11 月)、それを 2021 年度刊行予定単著に所収する。榊原本『源氏物語』各帖における書写者の人数把握は作業そのものは終わったものの、書写者の推定は確固たる根拠が見つかっていない。

学習院本「藤袴」巻は、実物そのものの保管の面から、『学習院大学デジタルライブラリー』で公開するに至った。それに伴い、同時期に書写されたと思しき、河内本源氏物語「帚木」(第一軸～第三軸)(学習院大学日本語日本文学科所蔵)も同サイトで公開している。

また、榊原本『源氏物語』「桐壺」巻が三條西実隆による書写であることから、榊原本『源氏物語』「桐壺」巻と日本大学所蔵の三條西家本「桐壺」巻を比較し、「榊原本源氏物語「桐壺」巻の書写状況の研究」という題目で学会発表を行ない(『2018 年中國文化大學外國語文學院日本語文學系國際學術研討會論文集 邁向永續發展社會之日語教育與日本文化研究試探』2018 年 5 月)、同題目で論文を執筆した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 武藤那賀子	4. 巻 20
2. 論文標題 玉里文庫本『古筆源氏物語』「空蝉」巻を読む	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際文化学部論集	6. 最初と最後の頁 410-430
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 武藤那賀子	4. 巻 16
2. 論文標題 学習院大学所蔵『源氏物語』河内本「帚木」巻翻刻（第三軸）と僚本/古筆切	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文	6. 最初と最後の頁 186-220
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 武藤那賀子	4. 巻 1
2. 論文標題 榊原本源氏物語「桐壺」巻の書写状況の研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018年中國文化大學外國語文學院日本語文學系國際學術研討會論文集 邁向永續發展社會之日語教育與日本文化研究試探	6. 最初と最後の頁 133-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 武藤那賀子	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 玉里文庫本古筆源氏物語(鹿児島大学附属図書館蔵)再考(一)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際文化学部論集	6. 最初と最後の頁 120-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 武藤那賀子	4. 巻 19(3)
2. 論文標題 玉里文庫本古筆源氏物語（鹿児島大学附属図書館蔵）再考(二)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際文化学部論集	6. 最初と最後の頁 191-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 武藤那賀子	4. 巻 4
2. 論文標題 三条西家旧蔵本（学習院大学所蔵）『源氏物語』「須磨」巻の書誌解題と翻刻 日本大学所蔵三条西家旧蔵本との比較（前半）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学習院大学国際研究教育機構研究年報	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 武藤那賀子
2. 発表標題 玉里文庫本『古筆源氏物語』の伝来 近衛家から島津家へ
3. 学会等名 西日本国語国文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武藤那賀子
2. 発表標題 榊原本源氏物語「桐壺」巻の書写状況の研究
3. 学会等名 2018年中國文化大學外國語文學院日本語文學系國際學術研討會 邁向永續發展社會之日語教育與日本文化研究試探（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武藤那賀子
2. 発表標題 榊原本僚帖『源氏物語』「藤袴」巻（学習院大学日本語日本文学科所蔵）と中院通茂
3. 学会等名 全国大学国語国文学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

『源氏物語』「藤袴」巻 <a href="http://glim-op.glim.gakushuin.ac.jp/kichousho/fujibakama/index.html">http://glim-op.glim.gakushuin.ac.jp/kichousho/fujibakama/index.html</a> 河内本源氏物語 帚木（第一軸～第三軸） <a href="http://glim-op.glim.gakushuin.ac.jp/kichousho/hahakigi/index.html">http://glim-op.glim.gakushuin.ac.jp/kichousho/hahakigi/index.html</a> 学習院大学デジタルライブラリー <a href="https://glim-op.glim.gakushuin.ac.jp/">https://glim-op.glim.gakushuin.ac.jp/</a>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------